三条市地域公共交通網形成計画　実施状況【令和４年度】

Ⅰ 日常生活に溶け込む既存の公共交通の磨き上げ		現状値	令和４年度実施状況	今後の取組
デマンド交通の利便性の向上				
№.１	デマンド交通ひめさゆりの全日運行 【中間目標値:80,000人、最終目標値:83,000人】	デマンド交通利用者数 72,698人（平成28年度）	利用者数：59,908人	前年度からは横ばいとなっているが、新型コロナウイルス感染症の影響が出る前の令和元年度と比較して２割程度減少しているため、下記№.２のほか更なる取組を通じて利用促進を図る。
№.２	多用者に対する負担軽減策の検討	－	負担軽減策の最善解を複数乗車の推進と捉え、複数乗車を推進していくための予約受付システム導入にかかる令和５年度市負担金予算を確保した。	令和5年10月から、市街地エリアでAIオンデマンド交通を運行開始する際の運賃は、既存のデマンド交通の運賃体系を踏まえ、バス、タクシー、鉄道等の地域公共交通とのすみ分けや経済性を考慮して設定する。
№.３	生活交通路線の見直しの検討	路線バス利用者数 70,510人（H27.10～H28.9）	既存の東三条駅から須頃地区までの路線バス（大学・専門学校前）を縮小し、循環バスぐるっとさん「燕三条ライン」を新規運行することで、事業の効率化と利用促進を図った。 利用者数 50,455人（R3.10～R4.9）	前年度からは約１割増となっているが、新型コロナウイルス感染症の影響が出る前の令和元年度と比較すると、１割近くの減少となっているため、今後も事業の効率化と利用促進を図る。
№.４	地域主体のコミュニティバス拡大の検討 【中間目標値: １地区、最終目標値: ２地区】	１地区でコミュニティバスを運行	新たに導入したい自治会からの問合せなどはなかった。	過去に照会のあった自治会も、運転員の確保と燃料代等の運行費の捻出が困難との理由で実現に至らないことがあった。当協議会として、今後も自治体から問合せ等があった場合は、地域のコミュニティバス導入支援に努めていく。
№.５	デマンド交通利用促進に向けた出張講座の実施	－	３か所で実施	まだまだデマンド交通やおでかけパスを知らない方もいらっしゃることから、関心のある団体に対しては引き続き事務局が説明会に赴き、制度の周知に努める。
高校生のバス等利便性の向上				
№.６	循環バスぐるっとさんの一部コースの見直し等の検討	循環バス利用者数 31,708人（平成28年度）	令和４年７月から、キャッシュレス決済（paypay）の導入、10月から、燕三条ラインの新設及び既存路線の見直しを行い、令和４年度の利用者数は前年度から約2,800人増加した。 利用者数：30,062人	令和５年度は、市立大学生の増加、新型コロナ感染症の５類移行、県央基幹病院の開院等により、更なる利用者の増加が見込まれるため、必要に応じて運行時刻の変更や増便を検討する。
№.７	高校生通学ライナーバスの利用促進 【中間目標値:6,050人、最終目標値:6,050人】	高校生通学ライナーバス利用者数 6,062人（平成28年度）	市内全高校生及び周辺の大崎学園及び下田中学校卒業生にチラシを配布した。 利用者数：6,287人	更なる利用促進を図るため、通学でバスを利用する機会の多い市内高校の在学生にチラシを配布するなど周知に努める。
№.８	バス待合環境の整備	－	待合環境の整備にかかる令和５年度市負担金予算予算を確保した。	まちの玄関口である東三条駅前にある、市循環バスぐるっとさんをはじめとした地域公共交通の結節点である東三条駅前案内所が令和５年４月から無人化されるのに伴い、乗降及び乗継拠点として必要な待合環境を整備することで、バスの利用環境を維持・改善し利用者の確保を図る。
№.９	鉄道の運行ダイヤ見直しの要望	－	JRへの要望	関係者の意見を踏まえ、引き続き要望を行う。

三条市地域公共交通網形成計画　実施状況【令和４年度】

Ⅱ まちづくりのエリアを意識した外出で利用される公共交通の構築				
イベント等で利用しやすい交通体系の整備				
No.10	デマンド交通おでかけパス購入拡大 【中間目標値:350人、最終目標値:500人】	230人（平成28年度）	293人	令和４年度は、運転免許証返納時に53人に対しておでかけパスを無料交付した。今後も引き続き、更なる制度の周知を図る。
No.11	デマンド交通おでかけパスの協賛店の拡大 【中間目標値:85店舗、最終目標値:100店舗】	70店舗（平成28年度）	引き続き市内店舗に対し協力を募集したものの、店舗数の拡大にはつながらなかった。 55店舗	上記No.10のおでかけパスの利用が進み、それを受けて協賛店も拡大できるよう引き続き協賛店を募集する。
Ⅲ 観光における二次交通の充実				
観光拠点に向けた交通機能の充実				
No.12	八木ヶ鼻温泉線の見直しの検討	路線バス利用者数 70,510人（平成28年度）	上記No.3の今後の取組の実現に係る協議を行うとともに、新潟県の委託事業として、下田地区の地域交通資源の有効活用に関する調査を実施した。	下田地区の地域交通資源の有効活用に関する調査結果を踏まえたMaas実証の運行開始に向けて関係者と協議を行うとともに、特に利用の少ない日中の便についての見直しも併せて検討する。
No.13	デマンド交通を活用した観光企画の検討 【中間目標値:56か所、最終目標値:60か所】	観光スポットに設置するデマンド交通停留所数 52か所（平成29年度）	工場の祭典では実施しなかった。	令和４年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、工場の祭典が規模を縮小して開催されたため、実施できなかったが、令和５年度はAIオンデマンド交通の運行開始に併せ対応を検討する。
No.14	八十里越開通後の只見方面の運行の検討	－	下田地区の地域交通資源の有効活用に関する調査を実施した。	時機を見て只見町側との話合いを行えるよう引き続き対応を検討する。